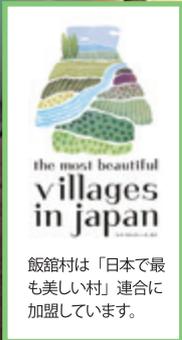
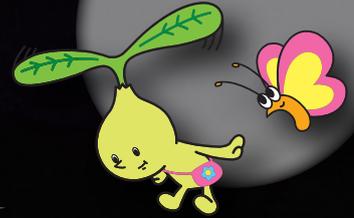


広報 
No.707
令和5年

いいたて

1
2023



www.vill.iitate.fukushima.jp

- 2 「迎春」
- 4 「新春のごあいさつ」
- 6 特集「飯館村のお正月」
- 10 ほけんとふくし「民生・児童委員」
- 11 報告「鳥インフルエンザ」ほか
- 12 飯館百景「雪の日のあいの沢」
- 14 学びの広場「生活発表会」ほか
- 15 生涯学習「クリスマスコンサート」ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 村からお知らせ
- 20 いいたてDIARY／までの食卓
- 21 はなれていても／ふれ愛館だより
- 22 ふるさと資源 発掘図鑑
- 23 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 24 ほっとNEWS／飯館言葉の達人

〈議会報告のページについて〉12月議会の報告は通常1月号に掲載しておりましたが、開会日が12月9日から16日に延期されたことに伴い、掲載を2月号に変更させていただきます。



今月の表紙

表紙の写真は「いいたて冬まつり」のイルミネーション点灯式。この日は「いいたて冬の花火」も打ち上げられ、訪れた人が美しい光の共演を楽しみました（裏表紙参照）。上の写真は、地域おこし協力隊が設置したキャンドル型ライトとドライフラワーのディスプレイ。ここでは多くの人が癒しの光をゆったりと眺めていました。

迎春 2023

あけましておめでとーございませ
ん。本年もどうぞよろしくお願ひします

私たちは一人ひとりが
ふるさとの担い手
飯館村というキャンパスに
それぞれの想いを描きながら
明日が待ち遠しくなるような
わくわくする楽しいふるさとを
育んでいきましょう





飯館村長

杉岡 誠

一人ひとりが輝くふるさと

新春をことほぎ、謹んでお慶び申し上げます。皆さまには、健やかに新年をお迎えのことと存じます。

昨年は、「村民の今を支える」「村の将来への布石」という2つの力点、視点を持つて、様々なことにチャレンジし、ふるさとの担い手の活躍が増えた年でした。

第1に、村民の皆さまの命と健康を守る取組みの二環として、村内に新型コロナウイルス接種会場を設置し利便性の向上を図りました。また、村内外でのサロン活動の推進、パークゴルフ等による健康増進に加えて、福島県立医科大学との連携協定や本田徹先生による村内訪問診療の開始なども実現しました。また「とくし丸」による村内

訪問販売と見守り体制を同時に構築したほか、私たちの生活を圧迫する物価高対策として、非課税世帯向け給付金や農業支援策等も進めております。

今年も、村民の皆さまが「ふるさとの担い手」として、健康で生き生きと暮らすためのきめ細やかで実践的な「村民の今を支える」取組みを推進していきます。

第2に、ふるさと資源を生かした魅力づくりの二環として、新たな商品の商品化やレストランのオープン、体験型コンテンツの創出なども実現できました。

飯館牛の復活は、本村にとって大きな意味を持ちます。昨年5月に道の駅において実施した飯館産牛肉の対面販売は大好評でした。道の駅でのポト

フやすき焼き煮、レストランでの牛皿定食などのほか、村カフェ753が開発した飯館産牛肉100%ハンバーガーなど、いずれも好評を博し、皆さまにとつてふるさとの名産品・飯館牛がどれほど待ち遠しいものであるか改めて実感できました。

また、全国で本村のみで栽培を再開した「あぶくまもち」は、昨年12月にイイタネちゃんマークを付けた「おこわおむすび」として商品化され、県内72か所のセブンイレブンで販売されました。

さらには、若手村民による地元食材を活かす田舎レストラン「ラ・カッセ」が二枚橋地区でオープンし、新たな憩いの場所となりました。村にとって新しいお店がオープンすることの意義は大きく、皆さまにさらに愛されるお店になっていくことを心から楽しみにしております。

このほかにも、村まつりや風の子マルシェ、県外大学キャンパスでの産品販売、様々な場所での伝統芸能の披露、地域おこし協力隊による活動、YOITOKO発見ツアーや

ミチシル旅、いきいきわくわく学びの旅など体験型の取組み、イイタネちゃんLINEスタンプのリリースなど、目白押し昨年でしたが、今年も、村産品・村伝統芸能を村内外の沢山の方に愛でいただく機会をつくっていくことで、より多くの方に「わくわく」を体感して頂きたいと思っております。

第3に、「村の将来への布石」として、木質バイオマス発電施設や資源型たい肥製造施設の誘致など、住民福祉の向上に資する「新たな産業創生」、次世代の職業選択になり得る「魅力あふれる農業」構築などにも取組み、今年さらには一歩前進を図っていきます。

本年を、お一人おひとりが、より意欲を持つて、一層輝いていける年、いい風が吹く二年にして参りたいと思っております。「明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさと」に向かって、鋭意全力を尽くして参ります。

新年が、皆さまにとり、活力に満ち溢れ、幸多き一年となりますよう、ご祈念申し上げます。新春のご挨拶いたします。



飯館村議会議長

佐藤 一郎

村の未来を見据えて

新年明けましておめでとございます。

今年の干支は卯年(兎年)です。兎は飛躍の年とも言われ、周りの状況や変化が良く見える年とも言われています。

さて、私たち飯館村を取り巻く社会情勢は、先の東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の拡大、温暖化による異常気象の災害、さらにはウクライナ戦争の影響、止まらない円安による物価高など、時代は大きく激動期を迎えております。

この様な状況を踏まえ、今年には2つの視点で新年のご挨拶をさせていただきます。

まず1つ目は「村の未来への備え」の視点であります。

国連は世界人口を発表し、今年80億人に達したと報告が10億人が増え、さらに増え続けているとされています。ちなみに1位の中国が14億2千万人、2位のインドが14億1千万人、3位のアメリカが3億3千万人、日本は11位の1億2千万人です。

人口が増える一方で、世の中は混沌としていて、人災、天災が繰り返され、世界小麦の輸出货量はウクライナとロシアが30%を占めており、ウクライナ戦争により、この2か国の輸出不足に陥ると言われております。

さらに、これに異常気象の温暖化による海面上昇、地震、大雨等による影響を考慮すると、次の「世界的な争い」は「石油」から「水と食料」の争いになるという識者が多くおります。

一方、村は先の震災の影響で人口減、高齢化率58%と不安定な要素も出ております。いま村はいろいろな事業を進めておりますが、いま村がやるべきことは「復興創生期間内に20行政区の基盤整備を完了すること」「村の食料自給率を上げる」「所得に繋がる政策を立ち上げ」そして「村の税収を増やす」ことが重要だと思っております。その税収は「少子高齢化対策」「教育」等に使っていく視点を持つて、村づくりの議論を進めたいと思っております。

次に2つ目は「円安による物価高の対応」の視点であります。

いま世の中は値上げラッシュであり、分かります。私達の家の畜産業を例に挙げると、値上げによって大打撃を受けております。現在の

成牛は65頭で子牛も入れると100頭の飼育状況です。餌のほとんどが輸入ものであり、その輸入餌の代金が牧草はキロ80円台から130円台に、餌代はトン8万円台から9万円台と1割以上が上昇しております。

この他、各種機械の燃料代の上昇分も含むと影響はかなりの大きいものになっております。既に村としても、「物価対策の補助金を出しておりますが、根本的な対策とはなっていない」のが現状です。いま村は「震災の影響により、約7割の村民が村外に避難を余儀なくされ、土地は村にある」訳でありますから、その土地を有効利用し、「牛の餌も村で生産する戦略的な土地利用と、地権者に少しでもお金が入る仕組みづくり」の視点を持つて、村づくりの議論を進めたいと思っております。

村の復興は毎年、確実に進んでおります。今後も議会の役割を果たしながら、村の未来に繋がる飛躍の年にしたいと思っております。

仕事始め

1月2日、切り餅一つと鉈(なた)を持って山に行き、この餅を鉈で削って木の根元にまき、白い紙を結いつけて拝みました。これを「山もし」「初山入り」「切り初め」など呼びました。その木を切って持ち帰り、火の足しにしました。おさごをまいてから小柴を切る所もありました。

また、仕事によって、畳屋は2、3枚畳仕事をするとか、炭焼きは馬車に炭をつけ出すとか、それぞれに仕事始めをしました。商店ではこの日は早くから店を開けました。

農の始め

1月11日の早朝に、小豆粥に鏡餅を焼いて入れ、それを歳徳神(としとくじん/家毎の神棚に祀る歳神)・田の神・畑の神などに供えました。その後、鍬と鎌を持って田の水口や畑に行き、草刈りや耕作の真似をします。続いて、床の間や神棚に飾ってあった「拝み松(おがんまつ)」をさし、おさごや餅を供えてその年の豊作を祈りました。また、一升枧に米と四角に切った餅を入れて持って行き、半分を供え半分を持ち帰りました。持ち帰った米は炊いて供え、餅は焼いて食べました。この行事には地区によって、さまざまなバリエーションがあります。



歳神様 としがみさま

歳神様は、正月様とも呼ばれます。餅や串柿、ミカン、昆布などをお供えします。柿は「かきまわしのよいように」と連にしてあげました。地区によっては銭に縄を通したものを供えたり、枧にご飯を入れて供えたりしました。お供えをする歳神様の棚をつくったり、掛け軸をかけた家もありました。

串柿とは…竹串に干し柿を刺したもので正月飾りの一つ。



写真は、大きな鏡餅が供えられた神棚。
(飯舘村デジタルアーカイブの映像から)

若水汲み わかみずくみ

家の主人や家督を相続する人が汲みました。年男の役とも言われます。若水汲みの日は、元日や三が日とする所、1月7日や11日とする所もあります。井戸の水神様におさご(清めの米)を供えて汲みました。この水で歳神様(正月様)に供え物をつくりました。若水汲みは平安時代の宮中に起源があるとされ、全国でもさまざまな形で定着しています。

お別火 おべっか

三が日は生臭物(なまぐさのもの/肉や魚)は食べずに「お別火」をしました。年取りの時に火は用いるものでないとされ、大晦日に炭を取って囲炉裏の火を消し、囲炉裏を塩で清めました。そして元日の朝に、豆がらで火を焚きつけました。この火を3日間絶やさないようにしたそうです。3日目には外に持って行って水でその火を消し、もう一度豆がらで火を焚きつけました。豆がらはカラカラと音がして、「金のなる木」とされました。

五穀豊穡の願いが込められた正月行事

一年の計は元旦にありという言葉がありますが、年中行事の中でも、新年を迎える行事は特に数多くあります。鍬を振るって田を耕していた時代、米をつくるのは大変な仕事で、冷害や凶作にも見舞われました。「来年こそは」と五穀豊穡を祈ったのが、こうした行事の本来の意味合いではないでしょうか。

また「仕事始め」というと、昔は山仕事の意味合いが強かったと思います。「農の始め」として行われる「拝み松(おがんまつ)」は、恵方(えほう)から松の芯を切つて来て行いました。今でも続けている方がいますよ。

正月に「生臭」を食べないという習慣などは今はほとんどなくなり、若水汲みは、今なら水道の水でも行えるでしょう。家々のやり方は、地域に

よつても「家例(その家に伝わるしきたり)」によつても異なります。なお、元朝参りというのは、随分後になってからの習慣のようです。この辺りでは、昭和30年代頃からではないでしょうか。

また、厄払いや小正月の田植え踊りは、地域ごとに日にちを決めて行われていました。震災前まで行われていた行事の中には、避難によつて失われたものもあったでしょう。そのような中で文化財愛好会の皆さんなど、いろいろな方が伝承に取り組んでいますね。

時代が移り便利な世の中になつても、新しい年を迎える時の人々の願いや心構えの本質は変わりません。令和5年、まずはコロナ禍の収束を願いたいですね。笑顔のあふれるいい年になつてほしいものです。



多田 宏さん
綿津見神社 宮司

昭和50年代発行の「飯舘村史」編纂に尽力。また全村避難の間も村に残り「ここが皆さんの心の拠り所になれば」と神社に明かりを灯し続けました。

ちょっと昔の 飯舘村の お正月

飯舘村には、地区ごとに伝わる年迎えの行事が数多くあります。一つひとつの行事に意味があり、豊年満作、家内安全など、さまざまな願いが込められています。

時代の移り変わりと共に、お正月の過ごし方は様変わりしました。また、大家族で多世代が同居する暮らしにも変化が訪れ、そうした伝統行事は徐々に縮小されています。しかし、新しい年の無事や安全、繁栄を祈る行事は、形を変えながら現在に続くものもあります。また、学校などで子どもたちが伝統行事を体験したり、地区によっては田植え踊りなどの復活・継承が行われていたりします。

昭和51年発行の飯舘村史「第三巻」民俗には、飯舘村に伝わってきたさまざまな正月行事の様子が記録されています。年配の方から聞き取りをした口伝が中心で、当時すでに失われつつあった古風なものを含めて、それぞれの行事の意味を書き記しています。先人の過ごしたお正月の様子を、ちよつとのぞいてみましょう。

作見の井戸 さくみのいど



深谷地区にある『作見の井戸』では、毎年1月上旬に井戸の水位を測り、その年の作況を占っています。



印の付いた専用の鉄の棒を差し入れます。



濡れた位置と印で水位を確認します。

殿舎の前に建つ石碑は『作見の井戸』の保存会が昭和55年に建立したもので、この井戸の縁起を記しています。それによると、この井戸は、寛文9年(1669年)に相馬藩主の命で小高から移住した佐藤氏が190年間使用した井戸で、干満の差が激しく「寒の節(二十四節気の小寒の日)から立春の前日までの約30日間」の水量で稲の作況の予知ができるとされ、天明の頃(1700年代後期)には『作見の井戸』の呼称があったと伝わります。昭和期には冷害や凶作を的確に予知したことから、神秘の井戸としてメディアにも取り上げられました。かつては自然のままの井戸でしたが、現在のような形に改修され、有志が水神を祀ったことも石碑には記されています。満水になると井戸の前にある『豊年の池』に水が流れ出るつくりになっています。しめ縄張りなどは、保存会の会員で井戸の土地の所有者でもある村山家が行っています。



川井智洋さん
JAふくしま未来
飯館営農センター長

『作見の井戸』は、毎年、JAふくしま未来飯館総合支店の支店長はじめ職員が、お神酒をあげて参拝し、水位を測っています。昭和9年から震災前までの記録と、作況指数を合わせてグラフ化したことがありますが、過去の記録は見事に重なっていました。かつてはその年の水位を会報に掲載し、冷害に備える年は、水田の水張りなど警戒を呼び掛けていたほどです。そのように、昭和期まではビタッと合っていたのですが、次第にずれが生じ、原因は分からないまま合致しない年も出てきました。地元の人の間では、自然災害などによる湧水の流れの変化ではないかと話題になりますが、特に震災後は水位の上がない年が多くなりました。しかしそれでもやっぱり、寒の入り過ぎると、水位を見に来る方がいらつしゃいますね。我々も、お正月の参拝と水位の測定をこれからも続けていきます。変化はあっても、よい方に捉えていければと思います。米作りに関わる者として、この井戸を大切にしていきたいと考えています。

ちょっと昔の 小正月

小正月とは、1月15日を中心とした行事のこと。元日を中心とした大正月の正月行事の締めくくりと位置づける地方もあります。村の正月行事はまだまだあつて、新たに嫁が来た家に行つて新嫁に炭をつける「墨祝儀」(ユーモアを込めたコミュニケーション?)や、女性が丸1日休み男性が家事をする「女の正月」といった行事もあったそうです。当時の様子もつと知りたくありませんね。

田植え踊り

1月13日の笠揃い(朝から衣装と道具を揃えて踊る)に始まり、神社に踊りを奉納してから、14・15・16日の3日間は各戸を回って踊り、最後に笠ぬぎ(笠はずしと呼ぶ地区もあります)をして、宴を催し終わりました。これも地区によって、流れが大きく異なります。回る順序の決まっている地区もありました。田植え踊りは、中断や復活を繰り返しながら、18の集落に伝わってきました。稲作の過程を表現する踊りで、五穀豊穰、豊年満作の願いが込められています。

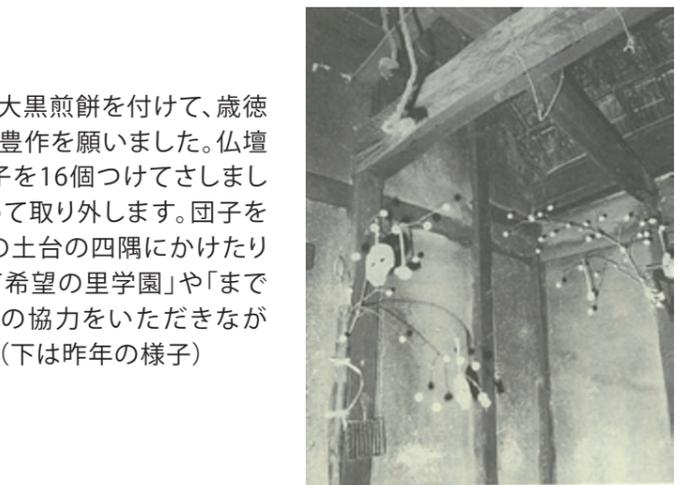


左の上の写真は雪の上で神社に奉納する比叡地区の田植え踊り。(飯館村デジタルアーカイブより) その下の写真は松塚地区の田植え踊りの行列。行列は「道行(みちゆき)」とも呼ばれました。(飯館村史より)



だんごさし

団子の木(ミズノキ・ミズギ)に餅団子や大黒煎餅を付けて、歳徳神や各部屋、かまど、風呂場などに飾り、豊作を願いました。仏壇には十六団子といって少し大きな餅団子を16個つけてさしました。それらは20日の朝に「稲刈り」と言って取り外します。団子を茹でた煮汁は、虫除けになるとして、家の土台の四隅にかけたり飲んだりする所もありました。「いいたて希望の里学園」や「まていの里のこども園」では、村民の皆さんの協力をいただきながら、毎年だんごさしを行い飾っています。(下は昨年の様子)



上の写真は飯櫃地区で撮影された昔のだんごさし。家のあちこちの柱に飾ったそうです。だんごさしに合わせて「イナボ」(左の写真)をつくる地区もありました。ヨモギを餅団子の煮汁につけ、粉をかからんでつくるそうです。

ともに認め合い、思いやり 輝くいたて

飯館村男女共同参画計画



右から福島県男女共生センター館長の千葉悦子委員、杉岡村長、いたて希望の里学園PTA会長の佐藤修治委員長(前田)、同学園教諭の高橋七恵副委員長(草野)。

「飯館村男女共同参画計画」を基本理念に、「ともに認め合い、思いやり 輝くいたて」を基本理念に、全ての村民が性別などに関わりなく個性と能力を十分発揮できるよう取り組むための計画です。計画期間は令和5年度から10年間です。

「飯館村男女共同参画計画」を策定 委員会が報告
12月15日、飯館村男女共同参画計画策定委員会が、11月に策定作業を完了した「飯館村男女共同参画計画」を、杉岡村長に提出しました。
令和3年9月に発足した同委員会は、男女共同参画にかかるとの歩みを振り返り、またアンケートを実施するな
取り組みに感謝しました。
杉岡村長は計画の充実した内容に触れ「新年度に向け庁内から取り組みを進めま
す」と述べ、委員の熱意ある

高病原性鳥インフルエンザの確認と対応について

12月7日、村内の養鶏場で、県内2例目となる高病原性鳥インフルエンザが確認されました。前日に「約100羽が死んでいる」と相双家畜保健衛生所に養鶏場から通報があり、福島県中央家畜保健衛生所が精密検査を行った結果、全国で多発している「H5亜型」のウイルスが検出されたものです。同養鶏場では約10万4,000羽が飼養されていましたが、**県の主導で全て殺処分され、施設の消毒など迅速かつ的確な防疫措置が取られました。**

この養鶏場の防疫措置は**12月11日に終了しました**。周辺で新たな感染などがなければ、半径3～10km以内の「搬出制限区域」は12月中に、同3km以内の「移動制限区域」は年明けに解除の見込みです。(※12月19日現在)

気をつけたいこと

我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザが人間に感染する可能性はないと考えられています。また、感染した鳥と濃密に接触するなどの特殊な場合をのぞき、通常では人に感染しないとも考えられています。そのような現状を踏まえながらも、次のような点には十分ご注意ください。

参考：農林水産省ホームページ／福島県ホームページ

- 野鳥に近づくと、必要がなければ避けましょう。
- 死亡した野鳥などには、素手で触らないようにしてください。
- 同じ場所でたくさん野鳥などが死んでいた場合、下記問い合わせ先へ連絡してください。
※野鳥が死んでいても、すぐに鳥インフルエンザを疑う必要はありません。

【問い合わせ先】 産業振興課農政第二係 ☎0244-42-1625
福島県相双地方振興局県民生活課 ☎0244-26-1144



民生・児童委員の皆さんは、地域住民の福祉の相談役です。どうぞよろしくお願ひします。

新たな任期がスタート
民生・児童委員の皆さんを紹介します

令和4年12月1日、厚生労働大臣の委嘱を受け、民生児童委員の新たな任期が始まりました。民生児童委員は、住民の見守りや支援を行い、地域福祉の推進を担います。また、行政機関の業務に対する協力も職務の一つになっています。任期は3年間で、令和7年11月30日までとなっています。



木立の中の遊歩道。上を見上げるとシュガーコーティングされたかのように白い雪をまとった枝葉の間から、空がのぞいています。時折枝からサラサラの粉雪がこぼれて来るのも楽しくて、飽きずに眺めてしまいます。

れると、朝陽ですでにゆるんできた雪面が、心地よい曲面を描いて、長靴での散策をより楽しいものにしてくれました。高い枝からサラサラと舞い降りる雪のかすかな音と、小鳥のさえずりだけが聴こえてきます。遊歩道にはウサギが跳ねた足跡、木の根元には駆け寄ったリスの足跡、雪に覆われた道路には悠々と横切った行ったキツネの足跡も見つけました。ベンチに腰掛けている木製の人形は、雪の付いた目元がニコニコ顔に見えます。

降雪は、交通や生活面に影響する厄介者でもあります。この朝のあいの沢では、清々しい景色を見せてくれました。

あいの沢に建つ改修中の「宿泊体験館きこり」は、来春にリニューアルオープン予定です。雪景色を楽しみながら、再開の春を待ちましよう。

飯舘 百景

雪の日のあいの沢



「隣にどうぞ」と笑っているように見えますね。



やわらかな新雪に覆われた道。奥は管理棟。



凍った池とのコントラストが新鮮な「あいの浮き橋」。

「村民の森あいの沢」に雪が降りました。

阿武隈高地に位置する飯舘村では、会津地方や中通りと同じように雪が降ることもあれば、太平洋側から続く青空に包まれる日もあって、冬の景色もバリエーションに富んでいます。

夜間にやわらかな新雪が降り積もったこの日、朝陽が昇る頃には雪雲が消えて、静かな雪景色が広がっていました。

あいの沢に足を踏み入

冬まつりを音楽が彩りました 飯館ジャズフェスティバル

11月26日、「いいたて村の道の駅までい館」のイベント広場を会場に、『第1回飯館ジャズフェスティバル』が開催されました。県内外から「太田圭輔カルテット」「ベティ&すわの杜カルテット」「大町一丁目トリオ」「Swingin Easily」の4バンドが集結。ジャズのナンバーを魅力たっぷりに演奏しました。

同じ会場で飯館村商工会主催の『いいたて冬まつり』も開催されていて(P24参照)、ジャズの演奏は夕刻に点灯されたイルミネーションともコラボ。光と音楽の溶け合う美しい景色が広がりました。



暮れなずむ空に、ジャズの調べが流れていきます。会場一体がしっとりロマンチックな雰囲気。

寒さに負けない体づくりを 楽しく元気に「テニス教室」

12月3日、「いいたてスポーツ公園」の屋内コート・屋外コートで、飯館村教育委員会・飯館村公民館(村生涯学習課)主催の『テニス教室』を開催しました。硬式テニスは南相馬市の佐久間光弘先生、

軟式テニスは飯館村役場テニスクラブが講師を務めました。

基本のレッスンも楽しい雰囲気、またゲーム形式のプレーも和やかに、参加者が心地よい汗を流しました。



幅広い年齢層の方が教室に参加。レッスンやゲームを通して、和やかに交流しました。



クリスマス・コンサートを開催 ジャズが彩る冬のひととき

村交流センターの自主文化事業「クリスマス・コンサート」が、12月3日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。第1部では、県立福島高校のジャズ研究部が「枯葉」「ブルーボッサ」など5曲を披露。初々しい演奏に会場から盛んな拍手が送られました。第2部では、ジャズ歌手の近藤淳さんが、「松島憲昭トリオ+1」をバックに、冬にちなんだ曲や、スタンダード・ナンバーから「シャレード」「ラブ・ミー・テンダー」などを披露。村内外から訪れた約80人が、一足早いクリスマス気分を味わいました。



近藤さんの癒しの歌声に満たされる会場。



福島高校ジャズ研究部のステージ。

「輝け 一人ひとりが主人公」をテーマに『生活発表会』を開催しました 12月3日、「までのの里のこども園」の園児たちが、練習の成果を存分に発揮し素敵な発表を行いました。



形遊び・手遊び・歌遊び

1歳児・つぼみ組



リズム遊び「山の音楽家」

0歳児・わかば組



劇「さんびきのこぶた」

3歳児・たいよう組



劇「てぶくろ」

2歳児・はな組



創作劇

5歳児・そら組



創作劇

4歳児・つき組



「厚揚げのじゅうねんがけ」など地元の食材たっぷりの献立。

学校田の新米が給食に登場! 感謝の気持ちで味わいました

11月24日、「いいたて希望の里学園」の給食に、1年生から6年生が収穫した「里山のつぶ」の新米が登場しました。前期課程では、佐藤博さん(二枚橋・須萱)の水田で、学校支援ボランティアの皆さんの協力の下、田植えや稲刈りを体験しています。この日は協力者の皆さんを給食に招いて新米を味わい、感謝を伝えました。子どもたちが「甘みがあってすごくおいしい」「ツヤツヤして香りがいい」と笑顔を見せると、佐藤さんは、「飯館のお米がおいしいと言ってもらえて、うれしいです」とやさしく話していました。

これまでの感謝を伝え、「体験を通して成長した。(前期課程修了で)最後となるのがさびしい」と6年生。

村を知り、人を知る 「ふるさとの担い手交流会」



(上) 村の文化について興味や疑問を話したり知識を伝えたり。(右) 交流の中で特技を披露する人も。



12月4日、交流センター「ふれ愛館」で、『ふるさとの担い手交流会』を開催しました。この交流会は、近年村に移り住んだ村民と、長く暮らしている村民とが、「ふるさとの担い手」として共に村を学び親交を深めようと企画したものです。

参加者はまず一人ひとりが自己紹介。その後3つの班に分かれ、村の文化をテーマに、それぞれの立場で語り合い、新たな出会いを楽しみました。

地域おこし協力隊の任期を満了 二瓶麻美さんが次のステージへ

ものづくりをテーマにしたマルシェ型イベント「山の向こうから」の開催などで活躍してきた飯館村地域おこし協力隊の二瓶麻美さん(大倉)が、3年間の任期を満了し11月30日に協力隊を卒業しました。



卒業式は同29日に村役場で行われ、高橋副村長から卒業証書を受け取った二瓶さんは、活動を振り返り「村の皆さんに本当によくしていただきました」と涙し感謝を述べました。



協力隊の仲間や役場職員が二瓶さんの卒業を見守りました。P20の二瓶さんの記事もご覧ください。

イタネちゃん×飯館言葉 村公式LINEスタンプを新発売!



標準語バージョンと方言バージョンの2セットがあります。それぞれ50コイン(120円)で購入できます。画像は方言バージョンのスタンプです。



12月14日、LINE(ライン)アプリ内で、飯館村公式ラインスタンプの販売を開始しました。村公式キャラクター「イタネちゃん」と村の方言を組み合わせ合わせたユニークなスタンプです。

ラインスタンプを家族や友人とご利用いただくことにより、イタネちゃんの魅力発信やPR、村を知り楽しむきっかけづくり、移住定住の促進や交流人口の創出などへつなぐことを目的としています。

LINEアプリ内のスタンプショップから、「イタネちゃん」と検索してみてください。

村産あぶくまもちのおむすび 県内のセブンイレブンで販売

12月1日、飯館村産のもち米「あぶくまもち」を使用したおこわおむすびの発売にあたり、村や生産者など関係者一同で、福島県知事を表敬訪問。完成した2種のおこわおむすびを披露しました。

「あぶくまもちを村の農業復興のシンボルに」という思いが、株式会社セブンイレブンジャパンとの連携により商品化へとつながりました。おむすびは、道の駅までい館のセブンイレブンをはじめ、川俣町と福島市の72店舗で限定販売され、大好評につき予定されていた3万個を完売しました。



(上) 内堀雅雄知事(右から3人目)と共に。(右)「舞茸入り五目おこわおむすび」と「赤飯おこわおむすび」をPR。



農畜産業の復興と発展へ 農業施策に関する意見書を提出

12月20日、飯館村農業委員会から村へ、『令和4年度飯館村農業施策に関する意見書』が提出されました。営農再開農地面積が震災前の約30%に留まっている現状から、農畜産業の復興と発展をさらに力強く進めるために意見したものです。

今回提出された意見書には、「営農再開に向けた事業施策の促進」「水田活用の直接支払交付金」「畑の利用促進」の3点について示されています。村は意見書を踏まえ、営農環境整備や国への働きかけ、村独自の支援などに取り組んでいきます。



農業委員会を代表して、菅野啓一会長(写真右/比曾)から杉岡村長へ、意見書が提出されました。

「美しい村」連合の仲間へ 災害義援金をお届けしました

今年9月に発生した台風15号は、東日本の太平洋側に大雨の被害をもたらしました。東海地方には線状降水帯が出現、静岡県では複数の地点で24時間雨量が400mmを超え被害が多発しました。

村は職員間で募金を行い「日本で最も美しい村」連合を通して被災地に義援金を送り、このたび静岡県川根本町からお礼の手紙を受け取りました。

飯館村もまた多くの市町村から支援をいただき、復興を歩んできました。感謝を忘れず、仲間と支え合い、今後も進んでいきたいと考えています。



川根本町・園田町長から届いた手紙には感謝の言葉と復興への思いが綴られています。



災害用メール配信にご登録を 冬の災害にも備えましょう!



「飯館村災害用メール配信サービス」は、登録いただいたメールアドレスに、村が災害関連情報を配信するものです。ご利用には事前の登録が必要です。登録画面にメールアドレスを入力するか指定のアドレスに空メールを送信すると、本登録の案内がメールで届きます。登録後は、災害情報を直接メールで受け取ることができます。迅速な避難などにお役立てください。また、村を離れて暮らす方は、村内の災害情報をいち早く知る手立てとしてご活用ください。

大雪などによる災害が起きる年もあります。いざという時の備えとして、「飯館村災害用メール配信サービス」を、ぜひご活用ください。



村ホームページのバナー「飯館村災害用メール配信サービス」から登録画面(上)へ。



再会を喜び感謝を伝え合った開會式。

老人クラブ若手委員会の交流
11月29日、飯館村老人クラブ連合会若手委員会が、北塩原村老人クラブ連合会若手委員会との交流会を開きました。村の同委員会が平成27年に視察研修に訪れたのが縁となり、相互の訪問が続いています。今回はコロナ禍の影響で延期となっていた「いたてパークゴルフ場」での交流会が実現。共にパークゴルフを楽しみ、懇親会で語り合い、つながりを深めました。



手づくり石けん教室を開催

12月10日、旧白石小の教室で、飯館村営農促進組合の事業で来村した農業ボランティアの大学生を対象に、菊野里絵さん(宮内)の「石けん教室」が開かれました。菊野さんは村の野菜などを使った石けんづくりをしていて、今回はホーリーバジルを使用。和やかに会話を楽しみながら、丁寧な作業が続きました。「農業体験はもちろん、こうした活動もできてうれしい」「訪れるたび人の温かさを感じます」と皆さん体験を満喫していました。

村生産のストックを都内の店舗へ



造園業を営む塚越栄光さん(草野)が東京都世田谷区の生花店「やよい園芸」を訪問。「しえるふぁ〜む」の花井由貴さん(大久保・外内)が夫婦で栽培したストックの取り扱いを依頼し、同店の店頭で並ぶことになりました。店主の始関剛司さんは「まっすぐに長く伸び開花の具合も丁度いい」と太鼓判を押してくれたそう。生産地と消費地をつなぐと活動している塚越さんは「村の花に関心を持っていただけました」と手応えを話しています。



いたて希望の里学園体育館で開催。

12月4日、飯館スポーツクラブ主催、シャトルフレンズ共催の「バドミントン交流会」が開催されました。試合参加人数は延べ23人。参加者からは「バドミントンを楽しみ思いやりの交流を深めました」と喜びの声が聞かれました。

第9回バドミントン交流会 in 飯館

来年は10周年記念大会!

試合結果

- 混合ダブルス
 - 1位 大澤和巳・蒔田結音
 - 2位 熊谷和久・菅野朝美
 - 3位 花井茂・林さい子
- 男子ダブルス
 - 1位 木村竜一・斎藤朗
 - 2位 高橋賢治・熊谷和久
 - 3位 菊野八尋・木村竜一
- 女子ダブルス
 - 1位 村井姫華・蒔田結音
 - 2位 佐藤敦子・佐藤千穂
 - 3位 星直美・林さい子

12月の村の動きと主なできごと

- 1日・民生委員・児童委員厚生労働大臣感謝状及び委嘱状伝達式(村役場)
- ・あぶくまもち使用おにぎり発売に係る福島県知事表敬訪問(福島県庁)
- 3日・交流センター自主文化事業「クリスマス・ジャズ・コンサート」(交流センター「ふれ愛館」)
- ・いたてスポーツ公園「テニス教室」(いたてスポーツ公園)
- ・行政区ヒアリング(村役場)
- 4日・ふるさと担い手交流会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・関沢地区農地中間管理事業調印式(関沢ふれあいハウス)
- 5日・新型コロナウイルス感染症対策本部会議(村役場)
- 6日・上飯桶地区農地中間管理事業説明会(上飯桶集会所)
- 6日・よい仕事おこしフェア大商談会 出展(東京都・東京ビッグサイト)
- 7日・第1回・第2回飯館村特定家畜伝染病対策本部会議(村役場)
- 8日・第3回・第4回飯館村特定家畜伝染病対策本部会議(村役場)
- 9日・第5回・第6回飯館村特定家畜伝染病対策本部会議(村役場)
- 12日・第7回飯館村特定家畜伝染病対策本部会議(村役場)
- ・文化財保護審議会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・社会教育委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 13日・第8回飯館村特定家畜伝染病対策本部会議(村役場)
- 14日・福島県立医科大学健康科学部ホーム実習(いたてホーム)
- 15日・男女共同参画計画策定報告(村役場)
- 16日・17日・19日・新型コロナウイルスワクチン(オミクロン対応)集団接種(いちばん館)
- 18日・第3回長泥地区将来構想検討委員会(福島市・県青少年会館)
- 19日・読書メッセ「ジコネスト」一般の部表彰式(村役場)
- ・新型コロナウイルス感染症対策本部会議(村役場)
- 19日・12月議会定例会(議場)
- 20日・農業委員会定例会(村役場)
- ・農業委員会 農業施策に関する意見書提出(村役場)
- 21日・定例教育委員会(書面開催)
- 23日・読書メッセ「ジコネスト」学校の部表彰式(いたて希望の里学園)
- 27日・第6回長泥地区除染検証委員会(村役場)
- 28日・仕事納めの式(村役場)

福島藩の藩主板倉氏に大内家の家臣が仕えた縁で、夫は30代から、板倉家家臣の子孫やゆかりの人で組織する「福島板倉温故会」の役員をされています。この板倉神社は、地元の人



夫の雄治さんと

はなれていても

大内 いずみさん（八木沢・芦原 福島県福島市在住）

福島の藩に避難をした私たちは、地元の人と暮らしを共にしながら暮らして来ました。当時、神社の周辺は、震災の影響で石垣などの修繕が

必要になっていました。また、前任の方が高齢となり、温故会の代表を夫が務めることになりました。その後平成25年に本殿を直し、平成28年に社務所となる「福島城板倉会館」を建設。貴重な史料も収蔵するため、管理人として私たちが住むことを決めました。

私の親は山形県の出身で、戦後、満州から引き揚げて前田豊栄に入植した開拓者です。私は早くに嫁いで、仕事をしながら農業もしました。村のスポーツ少年団には、指導者として長く夫婦で関わりました。

あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いいたします



11月22日に『第23回いいたてむら読書メッセージコンテスト』の審査会を行いました。入賞した方々の本やメッセージを交流センター交流回廊壁面へ掲示しております。メッセージを通じて読書の輪を広げましょう。また、村民の皆さんからの本のリクエストを受け付けております。どうぞお気軽にお声がけください。

新しい年も交流センターから読書の輪を広げていきます

交流センター「ふれ愛館」だより

地域おこし協力隊 いたてDIARY

ダイアリー

11月30日が最終日となり、協力隊3年間の任期を終了しました。

直接ご挨拶できていない皆さまにはこちらの挨拶にて失礼いたします。

これまで至らぬ点もあったかと思いますが、皆さまからいただいた叱咤激励の言葉が私の励みとなり、多くの学びを与えてくれました。尊敬する一人である村民からも「環境が人を作るんだよね」との言葉をいただいた通り、3年前には想像もしていなかったワクワクするような出会いと経験がここ飯館村にはありました。

今後も、飯館村で出会った人達と笑い合える様、協力隊で培った経験を活かし、次の目標に向かい研鑽していきたいと思っております。

任期中に開催していたイベントなどは今後も継続していく予定です。これからも大好きな飯館村におりますので、今後とも宜しくお願い致します。

二瓶 麻美



二瓶

お世話になりました。



3年間の任期を満了し11月30日に協力隊を卒業しました。

今月のライター

飯館村地域おこし協力隊 二瓶 麻美さん



おいしい飯館！ までのいの食卓

生産者の皆さんにおいしい食べ方を聞いてみよう！



キムチの巻

『アンニョンハセヨ高橋トク子のキムチ』は「いいたて村の道の駅までい館」で購入できます。



高橋トク子さん (深谷)

看板商品のキムチの他、梅干し、漬物、味噌などを道の駅に出しています。やさしい甘さのカボチャ饅頭も人気です。

30周年を迎えるトク子さんのキムチ

村の事業「嫁と姑の旅」で訪れた韓国でキムチと出会い、「キムチの会」を結成し生産を開始。その後、『鍛冶内の里なでしこ館』を立ち上げ個人で加工場を持ちました。工夫と改良を重ねて30年。「トク子さんのキムチじゃない」と言うファンのため、までのいに手をかけ、おいしいキムチをつくり続けています。



生イカや沼エビなど魚介の旨味が効いた本格キムチ。発酵食品なので、発酵の進み具合による味わいの変化も楽しめます。



根元の部分を刻んでキムチチャーハンに。発酵が進んだキムチは鍋物にも◎



はしが止まらなくなる味わい深いキムチです。食べ頃は好みで。

味噌汁を納豆の匂しにする人も

新型コロナ感染について お詫びとご報告を申し上げます

第6回

杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



11月末の私の新型コロナウイルス感染について、お詫びとご報告をさせていただきます。

去る11月28日(月)体調に異変を感じ、出勤を控えて定性抗原検査を実施したところ、11月29日(火)に新型コロナウイルス陽性を確認しました。

公務中はもちろん私用においても常時マスクを着用し、場面が変わるごとの手指消毒を行う等の感染対策を行っておりましたので、濃厚接触者はないものと判断され、役場自体は通常の業務を継続しました。

また、私自身は自宅療養となり、体調が回復してからは、副村長や職員と電話やメールで連絡を取り合い、在宅で業務を行いました。

第8波が押し寄せている中で、このような状況にいたり、村民の皆さまには大変なご迷惑とご心配をおかけし、申し訳ない気持ちでいっぱいです。心よりお詫び申し上げます。また心やさしいお見舞いの言葉をかけていただき感謝しております。

私自身、コロナ禍に対応し、できる限りの感染対策を講じてまいりましたが、それでも感染を防げなかったことで、本当にいつどこで誰が感染してもおかしくない状況にあると、身をもって実感したところです。

今後もコロナ禍対応に万全を尽くし、村民の皆さまの命と健康を守るとともに、職員の感染防止策を徹底し業務を行ってまいりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

ひとのうごき

ひとのうごき 令和4年11月30日現在

人口	今月(前月比)	11月1日~30日までの人口動態
●男	2,425人(-14)	転入 1人
●女	2,415人(-11)	転出 14人
計	4,840人(-25)	出生 0人
世帯数	1,807戸(-3)	死亡 12人
		(住民基本台帳人口)



(11月21日から12月15日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
高橋 新一さん	70	関沢
高野 節子さん	84	小宮
鈴木 榮さん	77	前田
佐藤 ヨシ子さん	94	上飯樋
佐藤 文良さん	90	上飯樋
新妻 キヨさん	92	蕨平
佐々木 キヨイさん	93	佐須
菅野 カツイさん	95	小宮
手渡 竹光さん	79	前田・八和木
武田 正雄さん	91	草野

ご冥福をお祈り申し上げます

〈お詫びと訂正〉12月号の「おくやみ」に掲載した菅野新一さん(関沢)は高橋新一さん(関沢)の誤りでした。大変申し訳ありませんでした。今号に掲載し改めてお悔やみを申し上げます。

ふるさと資源

発掘図鑑!

#地元食材でX'masディナー



田舎レストラン「La Kasse」では、月替わりのセットメニューの他、予約制でコース料理を味わうことができます。写真はクリスマス期間のディナーの一例。山田豊さん(関根・松塚)が生産した経産牛、株式会社リファア(白石)が生産したビーツ、そうめんカボチャなど、地元の食材をふんだんに使っています。※献立は仕入れの状況で変わります。

皆さんからの情報や投稿でつくるページです

どなたでも投稿できるコーナーですので皆さんも身近な話題をどしどしお寄せください!

飯館村広報委員会(村づくり推進課企画定住係)

☎0244-42-1613

#モミの木のスワッグ



ベーグル店「村カフェ753」に飾られたモミの木。飯館村森林組合が切り出し、クリスマス前に届けてくれるそうです。写真はその枝を使ったスワッグ。店主の友人でフラワー作家の「BlueWind」酒井薫さんが制作しました。クリスマスが終わったら、酒井さんがモミの木を正月飾りに仕立てて森林組合に贈る計画。モミの木の交流が続きます。

村民広報委員 ふじおさんの



いいって 宝さがし

あけましておめでとうございます。今回は、おめでたい話です。

過日、菅野正美さん(関根・松塚)が飯館電力会社主催のゴルフコンペで、見事ホールインワンをされました。聞けばゴルフ歴30年間で初めてと聞きます。奥様の光子さんも大のゴルフ好きです。(夫婦そろって仲良し!)

夫婦の仲の良いことといえば、昔1970年代の青年時代には、飯館村のどこの集落にも青年団という組織があり、正美さんも農業の傍ら、消防団活動や地域のタバコの総代などもされながら、青年会のスポーツやコミュニティにと交流会に参加されたそうです。特に長泥の方々との交流は頻りにあり、そこから結婚されたカップルも松塚には多いと、冗談っぽくもかわそうな、それでいて内に秘めた優しさで話してくれました。…やっぱり正美さんの宝は、人を包んでくれるような笑顔です…



ちなみに写真に写っているコーヒーカップの中身は、ご自分で作ったアルコール多めの梅酒だそうです。

笑顔!



冬の始まりにキラキラの笑顔が集まりました 商工会が「いいたて冬まつり」を開催

11月26日に開催された飯館村商工会主催の『いいたて冬まつり』。多彩なワークショップや同青年部が設置したイルミネーションの点灯式など企画も多彩で盛りだくさん。また『いいたて冬の火花』も打ち上げられ、多くの来場者が時間をかけて特別な冬の夜を楽しんでいました。



光の広場で。子どもたちがいつもと違う風景に溶け込んで遊んでいました。

ワークショップは、交流センター「ふれ愛館」で行われ、参加者がラテアートやクリスマスリースづくりなどを和やかに楽しみました。

夕刻からは、深谷復興拠点エリアに、商工会青年部が手がけた美しいイルミネーションが点灯。「ふかや風の子広場」の遊具にもライトが灯り、子どもたちが目を輝かせて遊んでいました。

また、大判焼きやコーヒーの振る舞い、地域おこし協力隊によるキャンドル型ライトのディスプレイも人気を集め、訪れた人が思い思いに素敵な夜を過ごしていました。

道の駅の裏手にはツリー型イルミの並木道。



商工会加盟の事業所などが協賛。「いいたて冬の火花」。



幅広い年代の方が来場し光の中の散策を楽しみました。

〈編集後記〉

●寒い日々が続きますが、新年もたくさんホットなニュースをお届けしていきます。12月は、村産あぶくまもちおむすび、公式ライオンスタンプの発売など、村を知っていたいただける機会が多くありました。また、今回のネイティブスピーカーズは、inつながつべ。ユーモアたっぷりの動画を迎えて、笑顔で新年を迎えましょう。(菅野)

●令和4年、広報取材を通してたくさんの方の想いに触れさせていただき、学ばせていただいた年でした。また、1年を通して平和の尊さと、その上にある何気ない日常のありがたさを胸に刻んだ年でもありました。どうかよりよい年になりますように。新しい年、1日1日を大切にしたいと思うと思います。(星)

Native Speakers

ネイティブ・スピーカーズ 飯館言葉の達人たち

第21回



その意味は...

しょーしーけど
しゃーねーな

スマホのカメラをかざしてYouTubeで見てください

または検索で!

飯館村 YouTube

